



### 自分の抗体価を知っていますか？

医療・福祉施設には生体防御能が低下している人（患者）がおり、感染症罹患患者も集まります。原則的に、自身が抗体を持たない感染症の患者にかかわることはできないため、感染症患者とも密接にかかわる私たちは、疾患に対する自身の抗体価を知っておく必要があります。自身の抗体価を知った上で、抗体価が低い疾患は、積極的に予防接種を受けることが必要です。

その際、医療従事者は「感染を防ぎ得る十分な抗体価」が必要となることから、一般の「陽性・陰性」の基準でなく、日本環境感染学会の「医療関係者のためのワクチンガイドライン（第2版）」を参照されることをお勧めします。記憶による罹患歴やワクチン接種歴だけを信用することは危険です。費用はかかりますが、抗体価検査（血液検査）により自身の抗体価を把握しておきましょう!!

日本脳炎・・・30歳以上で抗体がない大人が多い

百日咳・・・3歳以降抗体が減り5歳頃が最低。その後上昇（罹患して抗体獲得）

破傷風・・・40歳以降の大人はほとんど抗体がない

麻疹・・・大人の10%は抗体がない

風疹・・・中年男性の20%（約400万人）は抗体がない

おたふくかぜ・・・大人の20～30%は抗体がない

水痘・・・ほぼ100%抗体を保有する

話は変わりますが...

今年もインフルエンザが流行する季節がやってきます。自分が罹患しないため、周りの人を守るためにも予防接種を受けましょう!!

インフルエンザは、例年12月～3月頃に流行し、1月～2月に流行のピークを迎えます。ワクチンの効果出現までは2週間ほどかかり、持続期間は5か月ほどであることから、11月から遅くとも12月中旬までにはワクチン接種を済ませておきましょう!!

そして、自身の健康管理とともに、職場や家庭において、手指衛生をはじめとした感染防止対策を徹底し、感染症の流行シーズンを乗り越えましょう。

#### 〔出典・参考資料〕

- ・一般社団法人館林市邑楽郡医師会 健康コラム6月 第35回「大人にも予防接種が必要」
- ・国立感染症研究所 ホームページ
- ・日本環境感染学会 医療関係者のためのワクチンガイドライン（第2版）